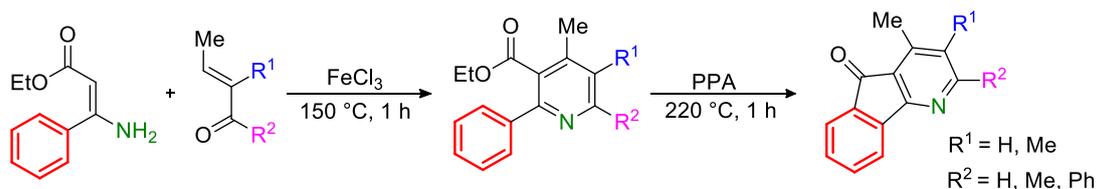


抗真菌活性や細胞毒性などの高い生物活性を有するオニシン誘導体は近年注目されている化合物群の一つである。しかしながら、既存の合成法では多段階反応を要するため低収率や、基質の適用範囲が狭いなどの制限があり、汎用性があるとは言い難い。本骨格の望みの位置に置換基を自在に導入することができれば新規な生物活性物質の探索が極めて容易になると期待される。そのような背景の下、当研究室で開発した多置換ニコチン酸エステルの合成法¹⁾を利用することで2位にフェニル基を有するニコチン酸エステルを合成した後、分子内で Friedel-Crafts アシル化を行なうことによりオニシン誘導体を得ることに成功した。本ニコチン酸エステルの合成法の特長は出発原料を変えるだけで種々の置換基をピリジン環に導入できることであり、従来法では入手が困難であったオニシン誘導体を簡便に得られることを明らかにした。



1) *Chem. Commun.*, **2017**, 53, 2390–2393.